

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2018年10月10日
【四半期会計期間】	第19期第3四半期（自 2018年6月1日 至 2018年8月31日）
【会社名】	株式会社エスプール
【英訳名】	S-Pool, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 浦 上 壮 平
【本店の所在の場所】	東京都千代田区外神田一丁目18番13号
【電話番号】	03(6859)5599（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部担当 佐 藤 英 朗
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区外神田一丁目18番13号
【電話番号】	03(6859)5599（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部担当 佐 藤 英 朗
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第3四半期 連結累計期間	第19期 第3四半期 連結累計期間	第18期
会計期間	自 2016年12月1日 至 2017年8月31日	自 2017年12月1日 至 2018年8月31日	自 2016年12月1日 至 2017年11月30日
売上高 (百万円)	8,308	10,701	11,696
経常利益 (百万円)	393	703	687
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	239	437	423
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	239	437	422
純資産額 (百万円)	1,290	1,850	1,473
総資産額 (百万円)	3,943	5,166	4,493
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	15.53	27.75	27.32
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	15.18	27.69	26.83
自己資本比率 (%)	32.4	35.7	32.5

回次	第18期 第3四半期 連結会計期間	第19期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2017年6月1日 至 2017年8月31日	自 2018年6月1日 至 2018年8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4.15	8.51

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
4. 第19期第1四半期連結累計期間より金額の表示単位を千円単位から百万円単位に変更しております。なお、比較を容易にするため、第18期第3四半期連結累計期間及び第18期につきましても百万円単位で表示しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(ビジネスソリューション事業)

当第3四半期連結会計期間において、連結子会社でありました株式会社エスプールエンジニアリングは、清算が完了したことにより、連結の範囲から除外しております。

(人材ソリューション事業)

主要な関係会社について異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、米中の貿易摩擦など世界経済に対する懸念点はあるものの、半導体関連を中心に製造業の設備投資が堅調で国内景気については緩やかな拡張傾向が続いております。一方で、雇用情勢については引き続き企業からの求人数が高止まりしており、厚生労働省が発表した2018年7月の全国の有効求人倍率は1.63倍と、1974年1月の1.64倍以来およそ44年ぶりの高水準で推移しております。従来から人手不足感の強いサービス業に加え、製造業や建設業でも求人が増加してきております。また、総務省が発表した7月の完全失業率も2.5%と低い水準を維持しており、完全雇用に近い状態にあります。

当社グループにおいても、このような雇用情勢を背景に人材派遣サービスが引き続き順調に拡大したほか、障がい者雇用支援サービスの売上についても大きく伸長しております。一方、損益面においては、事業規模拡大に伴って人件費を中心に販売費及び一般管理費が増加したものの、前述の増収効果により営業利益が増加しております。なお、当連結会計年度においては、環境変化に強いバランスの取れたポートフォリオ経営の推進のために、安定した収益基盤の構築、新たな収益機会の獲得、多様な働き方と生産性向上の実現の3点を基本方針として事業を推進していく所存であります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は10,701百万円（前年同四半期比28.8%増）、営業利益は699百万円（前年同四半期比78.8%増）、経常利益は703百万円（前年同四半期比78.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は437百万円（前年同四半期比83.0%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント業績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

ビジネスソリューション事業

ビジネスソリューション事業では、シニアや障がい者など潜在労働力の活用を支援するサービスや、企業の業務の一部を受託するアウトソーシングサービスを提供しています。前者においては、株式会社エスプールプラスが、障がい者雇用を希望する企業に同社が運営する農園を貸し出し、主に知的障がい者を企業が直接雇用し、収穫した野菜を従業員の健康促進に役立てる福利厚生プログラムの提供を行っています。また、株式会社エスプールでは、様々な経験やノウハウを有するシニアを、企業の経営課題や業務課題の解決に役立てるプロフェッショナル人材サービスを提供しています。

後者のアウトソーシングサービスでは、株式会社エスプールロジスティクスが、通販企業の商品の発送代行サービスや海外販売を支援する越境ECサービスを提供しています。また、株式会社エスプールセールスサポートでは、対面型の会員獲得や加入促進等のセールスプロモーション業務、キャンペーンやラウンダー等の販売促進業務を行っています。その他、株式会社エスプールでは、主にアルバイトやパートの採用募集に対する応募者対応を代行する採用代行支援サービスを行っています。

当第3四半期連結累計期間においては、2017年11月末に撤退したスマートメーター設置業務の売上がなくなりましたが、障がい者雇用支援サービス等が好調に推移した結果、売上を大きく伸ばしております。障がい者雇用支援サービスについては、2018年4月の障害者雇用促進法改正をきっかけに農園の新規参画が大きく伸びたほか、継続収入となる農園利用料が順調に増加しました。また、ロジスティクスアウトソーシングサービスでは、発送代行サービスの売上が堅調に推移しました。一方で、損益面では、新たに開設した品川物流センターの収益化に遅れが生じておりますが、相対的に利益率の高い障がい者雇用支援サービスの増収効果によりセグメントの営業利益率は改善しました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,176百万円（前年同四半期比16.4%増）、営業利益は579百万円（前年同四半期比40.1%増）となりました。

人材ソリューション事業

人材ソリューション事業は、人材派遣、人材紹介サービスを主力とする株式会社エスプールヒューマンソリューションズが提供するサービスで、コールセンターや事務センター等のオフィスサポート業務と、スマートフォンや家電製品等の店頭販売支援業務に関する人材サービスを展開しております。

当第3四半期連結累計期間においては、前述の通り企業の人材不足感がより一層強まっており、主力のコールセンター業務において、未経験者の即戦力化に長けたグループ型派遣サービスの売上が北海道や九州など地方を中心に大きく増加しました。損益面においては、社会保険料負担の増加等により売上総利益率が若干低下したほか、拠点数の増加や業容拡大に対応した組織面の強化により人件費を中心に販売費及び一般管理費が増加しておりますが、増収効果により営業利益は増加しました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,585百万円（前年同四半期比35.5%増）、営業利益は756百万円（前年同四半期比48.0%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から145百万円増加し、3,114百万円となりました。人材ソリューション事業を中心とする売上の増加により売上債権が306百万円増加しておりますが、一方で障がい者雇用支援事業の農園建設を中心とした投資活動による支出等により、現金及び預金が115百万円、繰延税金資産の減少により流動資産のその他が42百万円、それぞれ減少しております。

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から526百万円増加し、2,051百万円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて柏第二ファームやちば花見川ファーム等の新規農園の建設やあいち豊明農園等の既存農園の増設をしております。また、株式会社エスプールロジスティクスにて新たに品川物流センターを開設しており、有形固定資産が462百万円増加しております。さらに、人材ソリューション事業の地方拠点拡充に伴う敷金及び保証金の増加により投資その他の資産のその他が55百万円増加しております。

負債

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から235百万円増加し、2,931百万円となりました。前述の投資活動による支出等に備えて短期借入金を200百万円借り増ししております。また、業容拡大に伴って未払給与を中心とする未払費用が147百万円増加しております。

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から60百万円増加し、384百万円となりました。約定弁済により長期借入金が50百万円減少し、一方で農園の新規建設等により資産除去債務が90百万円増加しております。

純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により437百万円増加し、一方、第18期期末配当により56百万円減少し、1,850百万円となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、事業の拡大に伴い、正社員と契約社員を合わせた常用雇用の従業員数が、ビジネスソリューション事業で15名、人材ソリューション事業で40名、全社（共通）で6名、それぞれ増加しております。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,160,000
計	50,160,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2018年8月31日)	提出日現在発行数 (株) (2018年10月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,780,500	15,780,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。
計	15,780,500	15,780,500	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2018年10月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2018年6月1日～ 2018年8月31日	-	15,780,500	-	368	-	218

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2018年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2018年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,777,700	157,777	-
単元未満株式	普通株式 2,200	-	-
発行済株式総数	15,780,500	-	-
総株主の議決権	-	157,777	-

【自己株式等】

2018年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社エスプール	東京都千代田区外神田一丁目18番13号	600	-	600	0.00
計	-	600	-	600	0.00

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

(1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更しました。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2018年6月1日から2018年8月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2017年12月1日から2018年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,240	1,125
受取手形及び売掛金	1,565	1,872
商品	18	15
その他	144	102
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	2,969	3,114
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,026	1,431
その他(純額)	209	266
有形固定資産合計	1,235	1,698
無形固定資産		
投資その他の資産	60	67
その他	243	299
貸倒引当金	15	13
投資その他の資産合計	228	285
固定資産合計	1,524	2,051
資産合計	4,493	5,166
負債の部		
流動負債		
買掛金	106	134
短期借入金	900	1,100
1年内返済予定の長期借入金	141	86
未払法人税等	131	141
未払費用	764	912
賞与引当金	72	26
役員賞与引当金	18	-
その他	560	530
流動負債合計	2,695	2,931
固定負債		
長期借入金	103	53
資産除去債務	196	287
その他	23	43
固定負債合計	324	384
負債合計	3,019	3,315
純資産の部		
株主資本		
資本金	366	368
資本剰余金	216	218
利益剰余金	875	1,256
自己株式	0	0
株主資本合計	1,459	1,842
新株予約権	14	8
純資産合計	1,473	1,850
負債純資産合計	4,493	5,166

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)
売上高	8,308	10,701
売上原価	6,111	7,849
売上総利益	2,196	2,851
販売費及び一般管理費	1,805	2,151
営業利益	391	699
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	6	8
その他	1	0
営業外収益合計	8	9
営業外費用		
支払利息	5	4
持分法による投資損失	0	-
その他	0	0
営業外費用合計	5	5
経常利益	393	703
特別利益		
違約金収入	27	-
新株予約権戻入益	-	4
特別利益合計	27	4
特別損失		
固定資産除却損	4	19
損害賠償金	14	-
特別損失合計	19	19
税金等調整前四半期純利益	401	688
法人税、住民税及び事業税	83	210
法人税等調整額	78	40
法人税等合計	162	250
四半期純利益	239	437
親会社株主に帰属する四半期純利益	239	437

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)
四半期純利益	239	437
その他の包括利益		
持分法適用会社に対する持分相当額	0	-
その他の包括利益合計	0	-
四半期包括利益	239	437
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	239	437
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当第3四半期連結会計期間において、連結子会社でありました株式会社エスプールエンジニアリングは、清算が終了したことにより、連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2017年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年8月31日)
貸出コミットメントの総額	900百万円	900百万円
借入実行残高	200	200
差引額	700	700

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)
減価償却費	157百万円	192百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2016年12月1日 至 2017年8月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年2月23日 定時株主総会	普通株式	30	10	2016年11月30日	2017年2月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年2月27日 定時株主総会	普通株式	56	18	2017年11月30日	2018年2月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2016年12月1日 至 2017年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソ リューション事 業	人材ソリュー ション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	2,723	5,584	8,308	-	8,308
(2) セグメント間の内部売上高又は振替 高	4	12	16	16	-
計	2,728	5,596	8,324	16	8,308
セグメント利益	413	511	924	533	391

(注) 1. セグメント利益の調整額 533百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 534百万円及びセグメント間取引消去 1百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソ リューション事 業	人材ソリュー ション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	3,128	7,572	10,701	-	10,701
(2) セグメント間の内部売上高又は振替 高	48	12	61	61	-
計	3,176	7,585	10,762	61	10,701
セグメント利益	579	756	1,335	636	699

(注) 1. セグメント利益の調整額 636百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 597百万円及びセグメント間取引消去 38百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	15円53銭	27円75銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	239	437
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	239	437
普通株式の期中平均株式数(株)	15,408,113	15,775,516
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	15円18銭	27円69銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	359,055	33,516
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2018年10月9日

株式会社エスプール
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 尻 慶 太 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹 原 玄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エスプールの2017年12月1日から2018年11月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2018年6月1日から2018年8月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2017年12月1日から2018年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エスプール及び連結子会社の2018年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。